第 33 回日本受精着床学会
東京都、2015.11.26-27

『POF 患者において卵胞発育の早期に得られた卵子は有用か？』

堀金 聖羅・佐藤 学・橋本 周・高橋 由妃・山内 博子・高矢 千夏・姫野 隆雄・伊藤 啓二朗・中岡 義晴・森本 義晴

【目的】早発卵巣不全(POF)を呈する症例では治療により、成熟卵胞が発育することがある一方、卵胞発育が途中で停止することも多く、この厳しい状況下で卵子をいかに獲得するかが重要である。当院では 10mm 程度の小さい卵胞から採卵する未熟卵子体外培養法(IVM)を主に多嚢胞性卵巣症候群(PCO)症例に有用な方法として用いる。そこで、この手法を POF 症例に応用できないか検討するため、成熟卵胞で採卵した症例と小卵胞で採卵をした症例で成績を比較検討した。

【方法】POF 症例において 2013 から 2014 年に成熟卵胞径で採卵した(Regular size, R 群)52 周期、小卵胞径で採卵した(Small size, S 群)17 周期の臨床成績(採卵決定時の最大卵胞径、卵子の獲得率、成熟率、正常受精率、分割率、良好胚率、移植あたりの臨床妊娠率)を比較した。

【結果】採卵決定時の最大卵胞径は S 群(12.4±1.8mm)が R 群(17.5±2.0mm)に比べ有意に小さかった(P<0.01)。S 群と R 群の成績はそれぞれ、卵子の獲得率(58.8% vs. 73.1%)、成熟率(80.0% vs. 85.1%)、受精率(75.0% vs. 67.5%)、分割率(100.0% vs. 85.2%)、良好胚率(83.3% vs. 77.8%)、臨床妊娠率(60.0% vs. 56.3%)となり、各項目に差はなかった。

【考察】POF 症例において卵胞発育の早期に採卵をしても、半数の症例で成熟卵を獲得することができた。さらに、受精や胚発育の予後も良好であった。これより、卵胞発育の早期に得られた卵子も治療に利用でき、特に卵胞が発育途中で停止する POF 症例にとって有用である。